

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援にじいろ			
○保護者評価実施期間	R7年 2月 1日 ～ R7年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	R7年 2月 1日 ～ R7年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	幅広い年齢層の職員が在籍。経験を積んだ保育士や理学療法士の専門職が療育・支援に関わっていることで、それぞれの職員が保護者の方に寄り添った対応を行っている。	・各専門職が活動プログラムの作成に携わり、利用児ひとりひとりのことを考えて、チームとなり同じ方向を向いた支援を行っている。	・今後も利用児の背景を考えながら、色々な角度から職員がご相談を受け、にじいろのできる支援を考えていく。
2	保育園や幼稚園に近い支援プログラムをチームで連携している。	・保育士の経験を活かして、小集団から自信を持ってできる集団への参加の仕方、方法を子どもたちと一緒に考えながらスモールステップで取り組んでいる。 ・可能な限りお子さんに合わせた給食の提供を行っています。過敏なお子さんにはサイズや量を調節したり、温かいものをあたたかく、冷たいものを冷たいうちに提供できるように配慮している。	・今後も引き続き保育士、リハ職、栄養士と一丸となって職員自身も楽しめる活動を考え、子ども達が色々な経験をできるように支援していく。
3	保護者会を通じて交流を行う機会を設けている。 また、保護者の方にお子さんを客観的に観察していただく機会を設けている。	・保護者会を通じて、同じ悩みをもつ保護者の方との交流を深めたり、経験をお話ししていただくことで情報共有の場となっている。 ・療育の様子を見ながら相談、支援する機会を作っている。	・今後も定期的に行い、保護者の方との交流を深めたり、フィードバックを行い経過を共有していく。 ・集団の療育において、狙いに沿った関わりを目指していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が少ない 保育園や幼稚園との交流機会の企画・提供不足	・療育内容や支援など、「本人支援」に重点を置いている。地域交流や連携に対する取り組み不足。 ・同法人の保育園の他児と触れ合う機会があるが、それを保護者へ発信できていない。	・ハロウィンなどで地域の公民館に行っているが、情報収集をしながら活動の場を広げていきたい。 ・連絡帳アプリのお知らせを利用して、関わりの様子を発信したり、遊びの企画をしていく。
2	保護者への非常時等への対応（緊急・災害時）に対する周知・発信不足 訓練を実施していることの発信不足	・防災への取り組みや緊急時の対応は作成しているが契約時のみの説明にとどまり、その後の周知ができていない	・防災への取り組み、緊急時の対応に関して、内容を保護者へ年に1回周知する。 ・保護者会などを通して改めて発信の場を設ける
3			